

平成29年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要  
園芸部門

消費者ニーズを捉えた品種の早期産地化により販売額のV字回復に成功

○氏名又は名称 中野市農協ぶどう部会（代表者 上原 真一）

○所在地 長野県中野市

○出品財 経営（ぶどう）

○受賞理由

・地域の概要

中野市は長野県の北東部、善光寺平（長野盆地）の北端に位置し、市の北側にある高社山の西南のなだらかな傾斜扇状地を中心に、ぶどう、りんご等の果樹類や施設栽培によるきこの類の栽培が盛んに行われている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

中野市農協ぶどう部会は、昭和41年の発足以降「巨峰」で中野市ブランドを確立したが、平成10年以降は競合産地の増加や種なしぶどうへの消費動向の変化により販売額が低迷。産地再構築のため、「巨峰」から種なしぶどうの「シャインマスカット」や「ナガノパープル」、種なし「巨峰」等消費者ニーズを捉えた品種の早期産地化等に取り組んだ結果、販売額を過去最低時の21億円（23年産）から41億円（28年産）に回復させ、部会員1戸当たりの販売額を5年間で約2倍に増加させた。

・受賞者の特色

（1）技術

「シャインマスカット」の導入を迅速に決断し、2年生大苗導入や高接ぎなどにより他に先駆けた産地形成に成功。また、「ナガノパープル」の導入促進、「巨峰」の種なし化の普及拡大、長期安定出荷体制の構築等の取組が市場ニーズを捉え、平均単価を5年前の約1.5倍となる約4,924円/4kg（28年産）に向上させた。

（2）経営

① 部会主導型の組織運営

同部会が生産・販売面の振興策を主導し、県・市・JA等からの情報を生産・出荷現場へ迅速に反映できる体制構築と併せ、環境変化に素早く対応できる産地形成を推進。また、役員を40代の後継者世代から選出して産地意識の若返りを図り、即応性の高い事業展開を実現している。

② 販売戦略

消費者ニーズを捉えた品種導入、市場ニーズに合わせた荷姿作りや冷蔵貯蔵技術の確立による長期出荷体制の構築、特選品のブランド化（ブランド名「中野プレミアム」）に加え、香港、台湾等に向けた輸出に取り組む。

（3）女性の活躍

選果の評価基準作成や加工品開発等の販売戦略策定に女性が主体的に参画。また、女性の発案による粒ぶどうの航空機内食への採用等、販路の開拓・拡大にも大きく貢献している。

・普及性と今後の発展方向

これらの取組は産地回復の成功事例として他産地からも注目されている。今後は、生産基盤の維持拡大、消費者に選ばれる産地の構築、担い手の確保・育成をさらに進め、生産の振興、販売の維持強化を図っていく。